

ひょうたん 瓢箪



最古の園芸食物のひとつで乾燥させると容器として使えることから水やお酒、薬、農作物の種入れに使われていました。ひょうたんに入れた種は必ず芽が出ると言われたことから幸せや成功のチャンスが巡ってくると言われる。またひょうたんが三つ揃えば三拍(瓢)ろで良い、六つ揃えば無病(大瓢)息災のお守りになるといいます。戦国時代には豊臣秀吉が戦に勝つ度に旗印にひょうたんの模様を一つずつ増やしていき秀吉の千成瓢箪として有名になり勝負のツキを呼ぶ縁起物とされています。

新しい年を迎えました。日本人は古来より良いことがあるよう祈りを込めた縁起物を身につけたり飾ったりする習慣がありました。今では、この時期 受験にあやかた菓予なども出回っています。臍力を身につけることは大切ですが心のより所として今年自分にとっての縁起物を見つけてみませんか。

ふくろう



福来郎(福が来るふくろう)や不苦労(苦勞をしない)の発音から縁起物とされています。また首がクルクルと回るので周囲を良く見渡せることから商売繁盛。知恵の高い鳥であることから知恵の神、学問の神。夜行性なので家を守ってくれる。身動きせずじっと同じところにいられることから我慢強い。などたくさんいいわけを持ち世界中で愛される縁起物です。



招き猫

右手を上げているのは金運。左手を上げているのは人を招くといわれ縁起物とされています。

赤い臍のなる物

千両、万両、万年青、南天などの赤い身のなる植物は縁起が良いとされお祝いの時に飾られています。



だるま 達磨

だるまは、禅宗の祖「Bodhidharma」が壁に向かって座禅を組んで修業する姿だといわれています。どんな困難にあってもすぐ起き上がることから縁起物として広まりました。目のないだるまを舟に入れて祈り、願いを込めて左目を入れます。赤い着物は、火を表し、成就を妨げる邪気を払うといわれます。そして祈り、願いがかなったら右目を入れ、次の目標のためにひと回り大きいだるまを持つと良いとされています。

熊手

本来、落ち葉などをかき集める道具ですが「金、銀を集める」「幸福を集める」とされて縁起物とされています。

七福神

七福神信仰は、室町時代の末頃始まったといわれています。商売繁盛、大漁の神とされる恵比寿。豊作、開運の神とされる大黒天。家族を守り、勇気を与える神の毘沙門天。夫婦円満、知恵を授ける神の弁財天。長寿長命の神、福祿寿。家庭円満、無病息災の神、寿老人。平和を授ける神、布袋の七つの神様から成っています。これらの七つの神様をかたどった置物や、絵、根付などを身の回りに置き、縁起良くします。

